

教職員の皆さんへ（令和6年度 年度始め学長挨拶）

令和6年度初めに当たって、一言ご挨拶申し上げます。

今年は暖冬であると報道されていましたが、3月に入り寒い日々が続き、寒暖の差が激しい年になりました。

昨年度も担当理事・副学長、教職員皆様のご協力によって障がい学生支援室の設置、J-InovatonHUBの採択、日本留学 AWARDS 国立大学部門（東日本）への入賞等の成果を上げることができました。この場を借りて心から感謝を申し上げます。また、昨年秋には本学経済学部卒業生の Milojko Spajic 氏がモンテネグロの首相に就任されるという嬉しいニュースもありました。

さて、私が学長に就任して4年が過ぎ、残すところ2年となりました。今回の挨拶では、今後2年間の計画についてお示ししたいと思います。基本は、今まで行ってきた様々な施策の完成を目指すとともに、次の執行部にスムーズに引き継げるような着地点を考えていくことになります。

「第4期中期目標における計画達成見通しの確保に向けて」

令和6年度は第4期中期目標期間の3年目になります。第4期中期目標期間の成果は第3期以上に厳しく評価され、第5期の運営費交付金に今まで以上に反映すると言われていました。また、ご承知のように、4年目終了時に行われる評価が極めて重要になることから、今年度を入れた2年間で第4期中期目標中期計画達成の目処をつける必要があります。現在のところ、皆様のご協力とご尽力によって、全体として概ね順調に推移しておりますが、残念ながら、達成が危ぶまれる項目もいくつかあります。本学の置かれている状況をご理解いただき、計画達成に向けて一層のご協力をお願い申し上げます。

「教教分離によるオールインワンキャンパスの実質化」

2年前から進めてまいりました学術院の設置による教教分離を今年度より開始いたします。これにより、本学の強みのひとつである、オールインワンキャンパスの実質化を進めたいと思います。先日、学生とのディスカッションにおいて、すべての教育組織が一つのキャンパスにありながら、他学部学生との関わりや他学部講義を聞く機会が乏しく残念であるとの声を複数聞きました。本年度から、学術院運営委員会において、この点も含めた全学的な教育展開や大学運営全般について議論したいと考えています。

「研究活性化」

研究を進めるのに必要な「人」、「金」、「時間」が財政上の理由から満足に手当てできない状態になっています。これらを少しでも改善するために、まずは教員の研究時間の確保を考えたいと思います。そのための方策として、事務作業の効率化を進めるとともに、さらなる会議の縮減等を行う第二次時間回復プロジェクトを開始します。また、教職協働による職員や URA の協力体制の見直しと構築を併せて進めたいと思います。更に、企業との共同研究、外部資金獲得のための支援体制も検討していきたいです。現在、埼玉医科大学、埼玉県立大学との共同研究や戦略研究センターにおける研究は活発に行われており、徐々に成果も見えてまいりました。今後はそれぞれの成果を適正に評価しつつ、これらの事業に対しても支援を続けてまいります。

「改組について」

本学の機能強化を図るための改組について、一昨年度に設置したプロジェクトチームの検討と文科省との意見交換により方向性が固まってきました。教育学部の入学定員減と機能強化に加え、工学部の女子枠、教養学部の専修課程および大学院ダイバーシティ科学研究科の新設を予定しており、令和8年度の実施を目指します。ダイバーシティ科学研究科は県内他大学との共同による副プログラムも検討しています。詳細が決まりましたら全学運営会議等で報告して参ります。

「事務の効率化と教職協働の深化」

本学は歴史的な経緯から、学生数に対する教員、職員の数がともに他の国立大学に比して低く、教職員の負担が大きくなっています。財政上の理由から教職員数の増加が見込めない中、DXの推進によるマネジメント業務の効率化は本学の生き残りをかけた取組みとなります。今後も、経営企画推進課を中心に事務作業の更なる効率化を進めたいと思います。一方、大学の機能である教育、研究、社会貢献を最前線で担うのは教員です。教員がこれらに専念できる体制の構築のために教職協働の実質化が必要と考えます。教員の事務作業軽減のために、教職員の協力のもと、新たな仕組み作りを検討したいと思います。

「運営資金確保のための方策」

ご承知のように、国立大学に交付されている運営費交付金は第4期中期目標期間を通して一定とされています。収入は変わらない中、物価高や人件費の高騰などによる支出増が続いており、本学の経営は年々厳しくなっています。大学機能の維持とさらなる機能強化を行うための財源確保は喫緊の課題との問題意識から、昨年度、資産の有効活用として軽井沢荘、秩父倉庫の処分と大久保キャンパス西側の土地貸出の手続きを開始しました。今後は、現在本学が所有するその他の資産の有効活用について議論を進めるとともに、授業料値上げについても慎重にその可否を検討したいと考えております。

「創立80周年記念事業」

早いもので、創立70周年記念事業が終了してから本年度で5年になります。創立80周年が近づいてまいりましたので、記念事業の準備を始めたいと思います。まずは事業内容を決定し、基金集めを行う委員会を立ち上げたいと考えます。本事業は本学のプレゼンスを上げるとともに基金によって学内の施設等の整備を行うものです。皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

昨年度も申し上げましたが、本学がさらに機能強化を進め存在感を高めるためには、教育、研究、社会貢献活動の充実に加えて、地域社会との結びつきを強めることが必要です。地域との連携をさらに深め、「埼玉大学があってよかった」と言ってもらえる大学を目指していきたいと思います。

学生・教職員の皆さんとともに、教育、研究、社会貢献活動の一層の活性化を進めていく所存です。ご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

令和6年4月

埼玉大学長 坂井 貴文